

油山の宝ものさがし

～明治時代の油山「福岡県地理全誌」より～

明治5年から8年余をかけ編纂された「福岡県地理全誌」は、筑前国各村の明治初期の様子が、描かれた貴重なものです。

冒頭に村の位置、人家のある地名、地形、土壌、主たる作物・産物など村の概況を示しています。

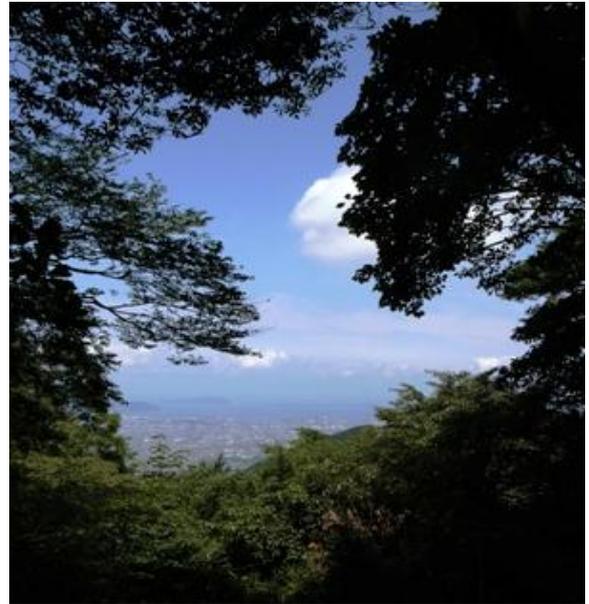
続けて戸数・人口、田面積と税額。山林、橋、池、牛馬、学校、河川、神社、寺、山岳、物産等の名称と数値等が詳細に書かれています。

明治時代の油山について、柏原村、東油山の項からみてみます。

柏原村、山岳の項目「油山」には「・・・此村ニテハ。長尾山ト云。・・・山麓砥石川ヨリ絶頂ヘ二十五町。険阻松雑木立・・・。」（柏原村では油山のことを長尾山という。麓の樋井川支流より山頂まで約2,750m。険しくて松や雑木が多い）

東油山村、山岳の項目には「・・・麓駄ヶ原ヨリ絶頂ヘ一里十町。険粗松雑木立リ。北ノ峯ヲ妙見ト云。南の峯最高キ所ヲ道德ト云。山上ヨリ壹岐對馬。其他ノ諸島見エテ佳景ナリ。」（麓の駄ヶ原より頂上へ約5,090m。険しくて松や雑木がある。北の峰は妙見と言い、南の峰の最も高いところは道德という。山の上からは壹岐對馬、他の島々も見え、よい景色だ。）

油山は松の多い、山頂は視界が開けた山だった様子です。また、両村の物産に薪、櫛の実があ



油山山頂。一角のみ眺望が開けていた。2011/8/19

げられ、森林は疎で、村の秋はハゼの紅葉が彩っていたのでは、と俣られます。

池については下流の村の用水と書かれたものもあります。上・下長尾村、片江村、堤村、田島村、桧原村など流域の村についても併せ読むと、バイオマス資源の利用など当時の知恵が、深くわかるのではと思います。（柴戸）

※ 資料「福岡県地理全誌」福岡市総合図書館蔵

